

1月11日

令和4年新春祝賀会・経済講演会

- 開催日時 1月11日(火) 14時～16時
- 場所 高松商工会議所会館2階大ホール及び
オンライン配信(Zoom)
- 参加人数 対面：85名、Web：40名 計：125名

例年立食形式で開催しております「新年名刺交換会」の開催を見合わせ、今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症防止の観点から来賓から御祝辞を賜る「新春祝賀会」並びに「経済講演会」を開催いたしました。

新春祝賀会 14時～14時30分
経済講演会 14時30分～16時

「激動の国際情勢を読み解く！～コロナ時代の近未来～」をテーマにモーリー・ロバートソン氏(以下、モーリー氏)による講演が行われ、対面約90名、オンラインで約30名の参加がありました。

モーリー氏は、東京大学中退後米ハーバード大学に入学。以後、多方面で活躍する傍らテレビやラジオなど多数出演し、報道の最前線で活躍しています。講演では、はじめに昨年末から緊張が高まっているアメリカ・中国・ロシアの国際情勢について解説がありました。

そして、フリーランスとして生計を立てるギグワーカーの例では、新しい働き方が雇用を生み出す一方で、ギグワーカーは実質的な雇用関係にあるが、保障を受けられないなど問題があると述べました。

後半部分

・緊迫するウクライナ情勢の背景には、資源ナショナリズムの問題がある

・昨今の資源価格の高騰や中国の電力不足の背景には、資源価格の高騰が関係している

・電力は今、ドイツの脱原発に伴う供給不足や仮想通貨の採掘といった新興国の新たな電力需要により世界的に不足している。そこへロシアが外交手段として、アジア・東欧地域に対し、設備や資源の供給を通じて影響力を増している状況。これらに共通する問題が、行き過ぎた経済主義であり、先進国と新興国の関係のように誰かが富む裏で負担を強いられている誰かがいる。その事実を受け止める必要があるとしました。経済的な豊かさを追い求めた過去30年での経験を世界的に軌道修正している時期なのかもしれないとまとめ、講演会は盛況のうちに幕を閉じました。



来賓挨拶(原四国経済産業局長)



モーリー氏登壇の様子